

「にんげんの壊れるとき」に関わる“微分”とは。

—人間の病理性と創造性の狭間を問う—

人間が「壊れそう」な局面において生まれた作品にはなぜこんなにも魅力があるのだろうか。

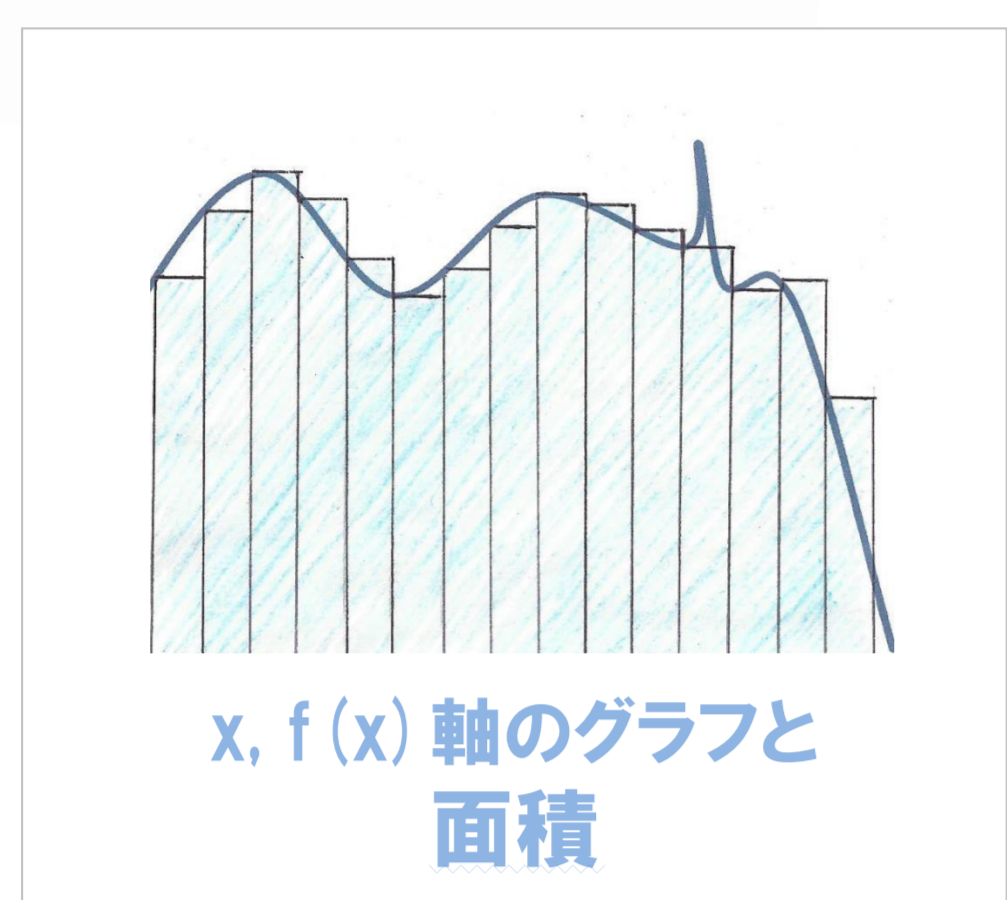
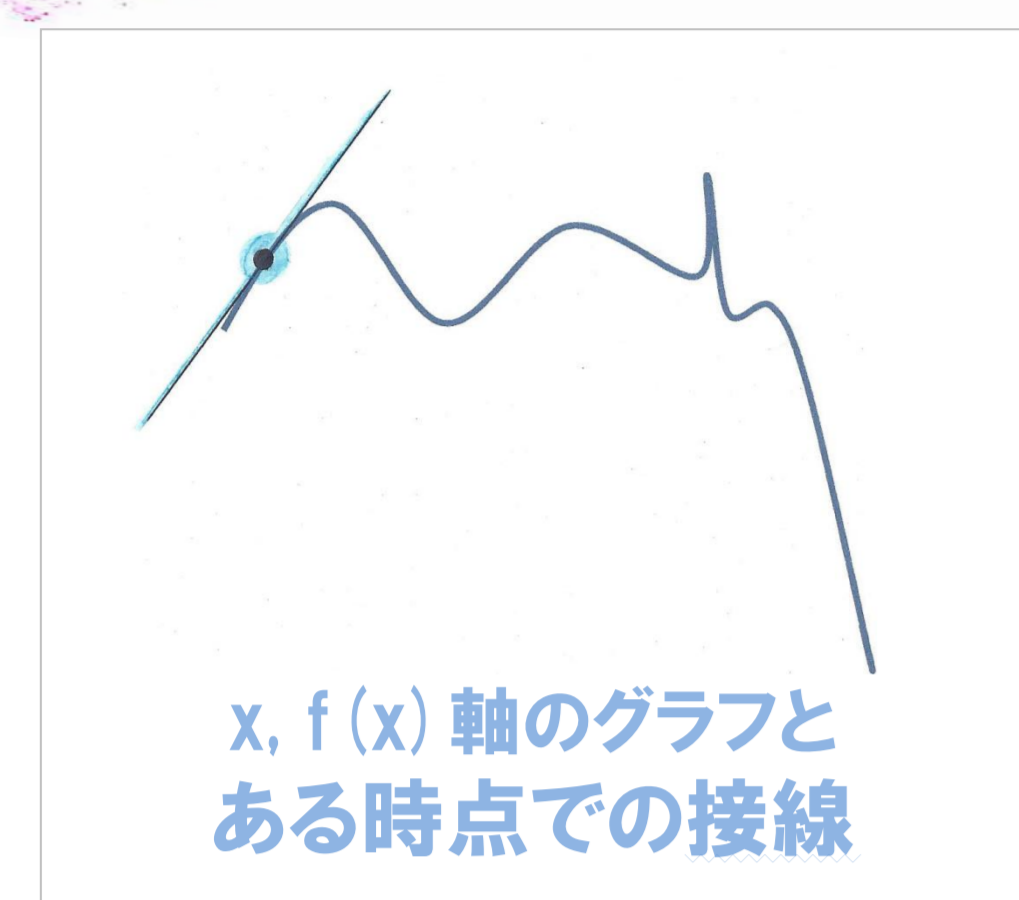
人間の病理性と創造的契機の狭間には何があるのか。
また、その狭間において個人や社会の為せる工夫とは何か。



・Vincent van Gogh「ひまわり」「自画像」〔左下〕
・早稲田生「南瓜」〔右上〕
・宮次賢治『春と修羅』〔右下〕
(本題の「にんげんの壊れるとき」の由来)

切り口としての微分・積分

0 微積の基本



微分

関数f(x)の… 微小な変化量を測り、そこから全体を予測(近似)すること。

{x, f(x)}は何を表現したいかによって定まる。
変数はひとつとは限らない。
例えば… {x=時間, f(x)=体重}, {(x,y)=位置(経緯)}, f(x,y)=気温 など。

積分

関数f(x)の… ある区間における総量を測定すること。

わたしたちの学際研究マップ

現実が多面的・複合的・立体的
机上・図面上の話でなく
人間が生きる世界に議論を移すと？

「数学」における微積 と
「比喩」として語られる微積 の関係について、
「哲学」における微積 をも併せて考察したい

数学 哲学
微積分学の誕生
「連続」に関わる議論

精神病理学 教育人間学
「微分回路・積分回路」 「どのような比喩か？」
病理性の文脈 ←→ 創造性の文脈

c.f. Henri F. Ellenberger(エレンベルガー/エランベルジェ)(1905-1998)
の述べる「創造の病い」という概念
【『エランベルジェ著作集2 精神医療とその周辺』中井久夫編訳 1999 みすず書房】

(基礎研究として)
今、微積はどこにあるのか？

- 数学史において
- 哲学史において
- 人間の思考様式や生活習慣への影響において

また、「微積分」が
「病理」と呼ばれる苦しさに関係するとき、
それを乗り越える道筋についてのヒントを
微積分自体の歴史の内に見出せるか？

(今後の学際研究として)
病理性と創造性の狭間について

片や「病理」である以上、その狭間に安直な架け橋を渡すことはできない。

更に、「創造」自体は未知の出現である。

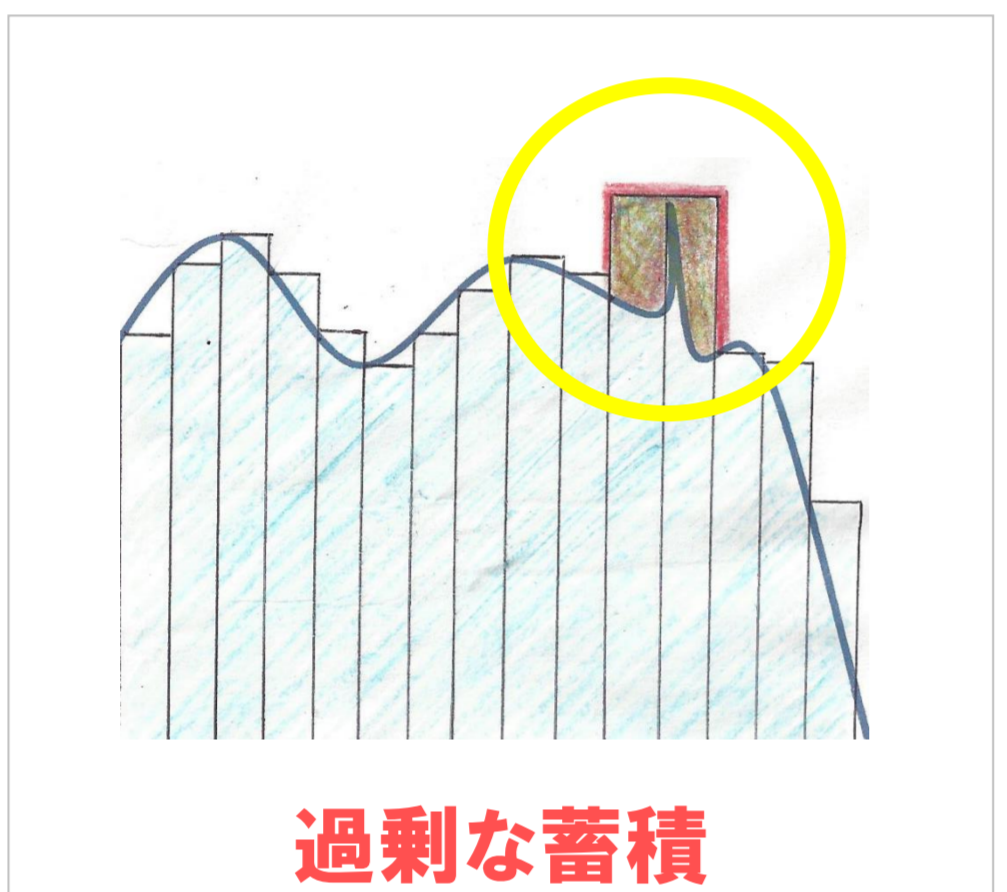
以上を踏まえると、「病理性と創造性の狭間」についての直接的な答えを得るのは困難な道のりである。

それでも
多様な個人がまさに今も
創造と病理のあわいを
生きている／生きようとしている
のではないか
という立場から、

さしあたりは、「出力の場」への自覚的な取り組みのための理論的枠組みを整える
といった学問的なアプローチを目標とする。

こうした研究は、「出力の場」すなわち「創造」の「土壌」とでも言うべきところを耕すという意味で、未来の「創造」に深く関わっているはずである。

1 病理性について



医学者・精神科医である中井久夫(1934-)の述べる「微分・積分」
【中井久夫『最終講義：分裂病私見』1998 みすず書房】

微分回路

「入力の時間的変動部分のみを取り出し、未来の傾向予測に用いられる」思考回路
関心は現在や未来にある
… **分裂症(統合失調症)** への傾向性

積分回路

「傾向の把握には適さないがノイズの吸収力は抜群である」思考回路
関心は過去にある
… **鬱病** への傾向性

それに対してどうしている？

- 投薬
- 入院 など

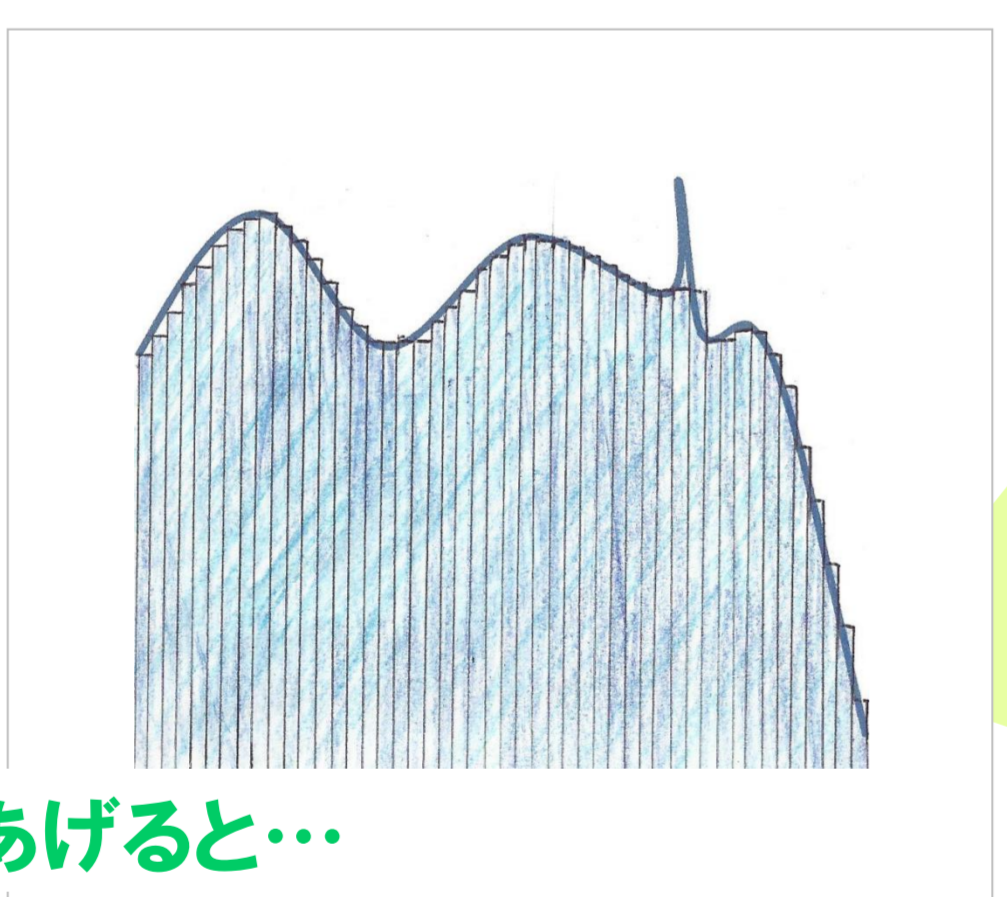
但し、過剰な投薬や長期の入院は
閉鎖的・他律的空間
への隔離
に繋がりがうる

前提とされている感受性の捉え直し
「ちょうどいい敏感さ」とは？

「純感さ」や「麻痺」を求めるとまた人間の性である

楽になる？
あるいは
苦しくなる？

2 創造性へ向けて — 「治す」



ズレの調整

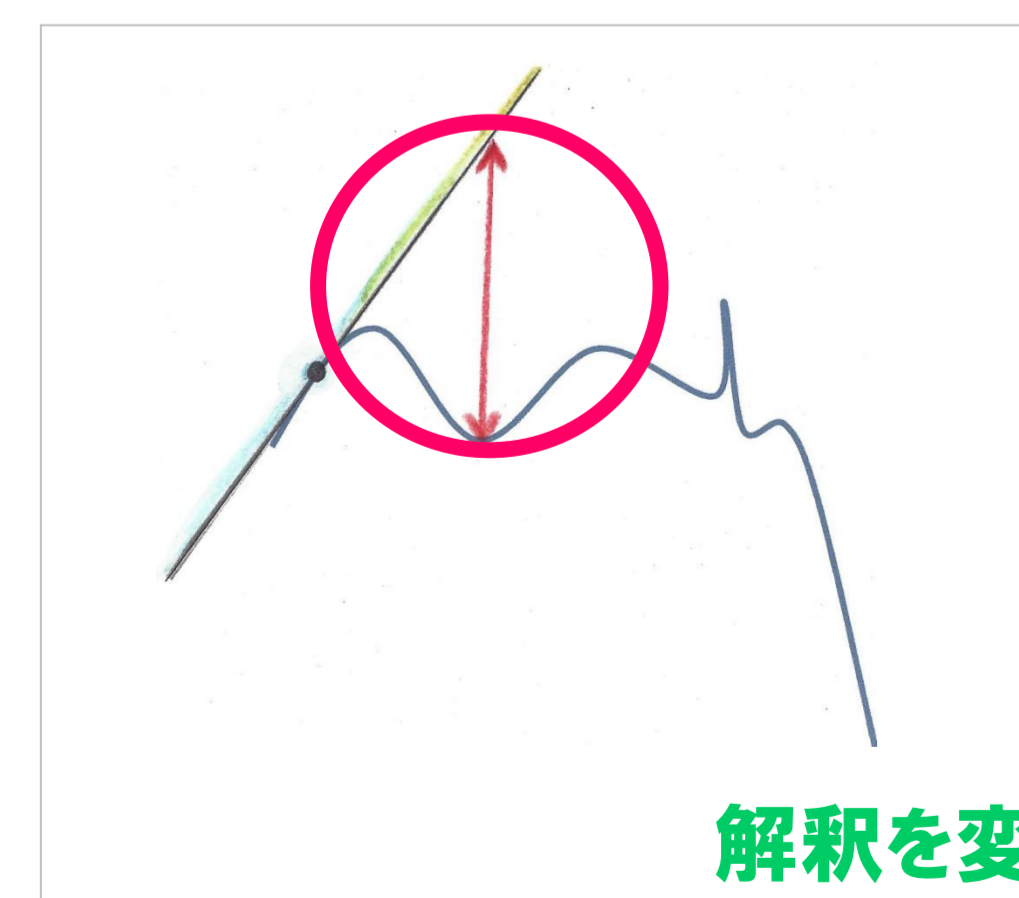
「現実のあり様」における
偏重をただす

自己/世界を
① 精しく見る
② 大局的に見る

もし
① [目盛の微細さ]
② [軸のとり方]
を主体的に調整できれば…
(ノイズコントロール)

現実のより精緻な認識
自己や世界への理解の深まり
c.f. マインドフルネス

3 創造性へ向けて — 「活かす」



ズレの肯定

「現実のあり様」における
多様性を受け入れる

その差異を
「病理」と呼ぶ前に
「世界の見え方の多様性」と捉える

前提とされている「現実」の問い直し
「普通」「正常」とは？

c.f. 多様な「世界の見え方」を知るVR技術

ともすると
「型にはまる」？
調整は矯正？

+ 出力の場

(「創造」の土壌として)

- 「病理」を隔離するのでも、矯正するのでもなく、その人の“世界の見え方”を表現するのに「触媒」としてはたらくような環境(場・機会・人との出会い)
- 単なる保護空間でなく、出力の成果は評価され揉まれるような、自己と他者がfairに出会い、正當に戦い合えるfield